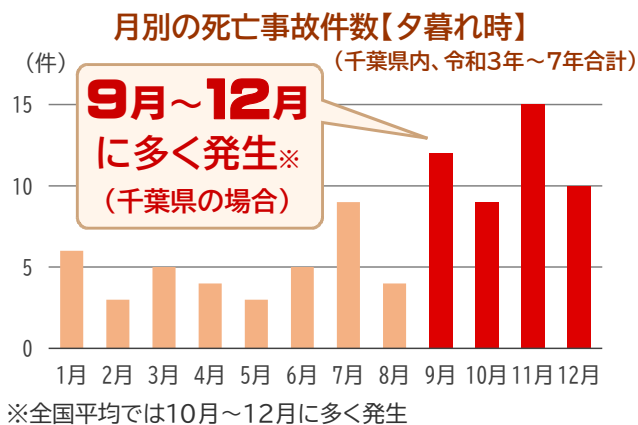


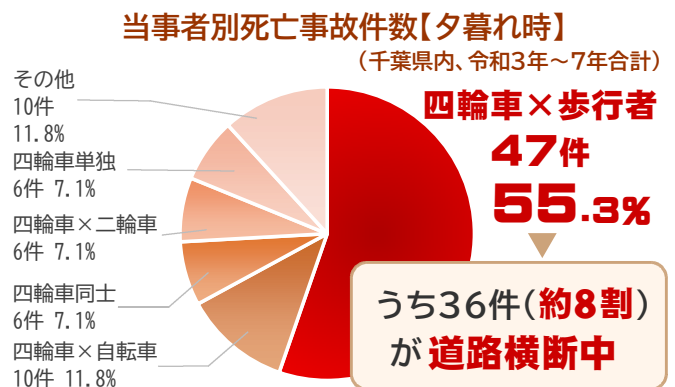


年間を通じて、交通死亡事故は「夕暮れ時(日没時刻の前後1時間)」に多く発生していますが、日没が早くなる秋から冬にかけては特に増加する傾向があります。

特徴① 秋～冬に死亡事故が多発

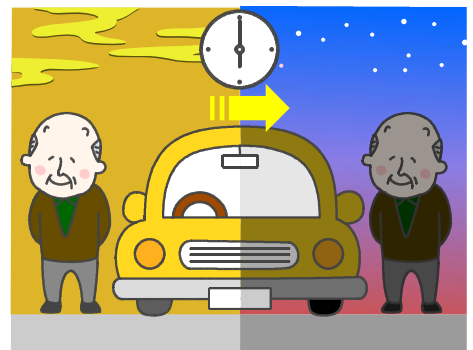


特徴② 四輪車 対 歩行者が最多



四輪車 対 歩行者の死亡事故はなぜ多い？

- 日没が毎日少しずつ早くなる一方、ドライバーは「まだ明るい時間だ」と考え、ライトを点灯するのが遅れる
- 周囲が暗いと、ドライバーは歩行者が見えにくくなる
- 暗くなると、歩行者は車両の距離や速度が分かりにくくなる
⇒ 「車は遠くにいる」「遅く走っている」と錯覚しやすい
…などの理由が挙げられます



こんな事故が発生しています

四輪車は、直前まで歩行者の存在に気づかず、速いスピードのまま衝突



歩行者は、「車はまだ遠い」「止まってくれる」と思い込み横断を開始して衝突される

車両を運転する方は



薄暗くなる前から**早めにライトを点灯**して、

- 歩行者などの発見に努めましょう
- 車両の存在を周りに知らせましょう

夕暮れから夜間は**スピードを抑えて、慎重な運転**を心掛けましょう

歩行者の方は



車はライトを付けていても、暗い場所にいる歩行者に気づいていない場合があります

- 道路を横断するときは、できる限り横断歩道を利用し、**左右とも車が来ない・車が確実に止まった**のを確認して渡りましょう
- **明るい色の服装や反射材**を着用しましょう